

# 改訂・沖縄県の 絶滅のおそれのある 野生生物 第3版 **動物編**

レッドデータおきなわ



Threatened Wildlife in Okinawa, Third Edition (Animals)  
— Red Data Okinawa —



沖 縄 県



改訂・沖縄県の  
絶滅のおそれのある

野生生物 第3版 **動物編**

レッドデータおきなわ

Threatened Wildlife in Okinawa, Third Edition (Animals)  
- Red Data Okinawa -



## 発刊にあたって



沖縄県は、亜熱帯海洋性気候の下、美しいサンゴ礁が発達した青い海と多様な野生生物が生息・生育する緑豊かな160の島々から構成されており、他の都道府県とは異なる固有の自然環境を有しています。

この恵み豊かな自然環境を保全し、次世代へ引き継ぐことは、今を生きる私たちに課せられた責務であります。

現在、環境省において、西表石垣国立公園の拡張や、やんばる国立公園の指定と併せ、同地域の世界自然遺産登録に向けた作業を進めており、去る平成29年2月には、ユネスコへ推薦書の提出がなされたところであります。

一方、沖縄県の自然環境については、以前から、外来生物が生態系にとって脅威となっていたほか、開発等による希少種の絶滅などが懸念されていたことから、これらの保護の必要性を広く県民に知らせることを目的として、平成8年に「沖縄県版レッドデータブック」を策定し、平成17年に第1回目の改訂を行ったところであります。

今回の改訂は、環境省のレッドリスト第4次改訂（平成24年）や、IUCN（国際自然保護連合）レッドリストの改訂（平成28年）など、国内外における近年の動向を踏まえつつ、分子系統学に基づく分類の整理や現地調査の結果など、最新の知見に基づき対象種の選定及びランク付けを行い、これまでの837種から154種対象を増やし、991種をリストアップいたしました。

今後も、沖縄県の自然環境が県民の宝として受け継がれていくために、本誌が、国内外の多くの皆様に情報提供を行うとともに、沖縄県の野生生物を保護し、生物多様性を保全する一助となれば幸甚に存じます。

最後に、本誌の作成に当たっては、沖縄県の野生生物に対して専門的な知見を有する皆様に慎重な検討と評価を行っていただきました。この場を借りて心から感謝申し上げます。

平成29年3月

沖縄県知事 翁長 雄志



沖縄島北部やんばるの亜熱帯照葉樹林

# 沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物(動物)

亜熱帯気候かつ160もの島々からなる沖縄県の野生生物(動物)は、沖縄島北部に生息するヤンバルクイナやノグチゲラ、西表島に生息するイリオモテヤマネコのように、それぞれの島で独自に進化した固有種や固有亜種の多いことが、他の都道府県とは異なる特徴の一つとなっており、生物多様性の豊かさは世界でも有数といわれています。

その反面、それぞれの島で生活の場を奪われた野生生物は、他の島々へ移動することができないために減少したり、絶滅するおそれがあります。いちど失われた自然環境を回復させることは容易ではありません。

ここでは、本改訂において、沖縄県で絶滅または絶滅のおそれのある種として選定された野生生物(動物)の概要を示します。

絶滅のおそれのある動物

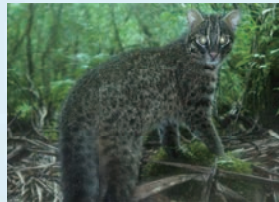
## 八重山諸島 630種

(うち絶滅1種)

- 哺乳類 イリオモテヤマネコなど 9種
- 鳥類 カムリワシなど 71種
- 爬虫類 イシガキトカゲなど 18種
- 両生類 コガタハナサキガエルなど 2種
- 魚類 ツバサハゼなど 107種
- 甲殻類 ショキタテナガエビなど 102種
- 昆虫類 タイワンタイコウチなど 68種
- クモ類 オオクロケブカジョウゴグモなど 7種
- 多足類 ヤエヤママルヤステなど 3種
- 貝類 トウドゥマリハマグリなど 243種  
(うち絶滅1種\*)

移入と考えられる貝類1種は除外。

\* 本改訂で新たにリュウキュウカワザンショウが絶滅種に選定されています。



イリオモテヤマネコ



カムリワシ



ツバサハゼ



トウドゥマリハマグリ

## 南西諸島

鳥島

久米島

## 東シナ海

絶滅のおそれのある動物

## 尖閣諸島 24種

- 哺乳類 センカクモグラなど 2種
- 鳥類 アホドリなど 8種
- 爬虫類 シュウダなど 2種
- 甲殻類 センカクサワガニなど 3種
- 貝類 タカラホソマイマイなど 9種



絶滅のおそれのある動物

## 沖縄諸島 670種

(うち絶滅6種)

哺乳類	オキナワトゲネズミなど	13種
	(うち絶滅1種)	
鳥類	ノグチゲラなど	65種
	(うち絶滅1種)	
爬虫類	クメトカゲモドキなど	16種
両生類	オキナワイシカワガエルなど	8種
魚類	トカゲハゼなど	80種
	(うち絶滅1種)	
甲殻類	ヒメユリサワガニなど	90種
昆虫類	ヤンバルテナゴコガネなど	63種
クモ類	ヤマトウシオグモなど	25種
多足類	ホラオビヤステなど	4種
貝類	アマノヤマタカマイマイなど	306種
	(うち絶滅3種*)	



ノグチゲラ



クメトカゲモドキ



トカゲハゼ



ヤンバルテナゴコガネ



ヤマトウシオグモ



アマノヤマタカマイマイ

\* 本改訂で新たにリュウキュウカワザンショウとキルンが絶滅種に選定されています。

硫黄島

絶滅のおそれのある動物

## 宮古諸島 293種

(うち絶滅2種)

哺乳類	ミヤココキクガシラコウモリなど	5種
	(うち絶滅1種*)	
鳥類	キンバトなど	60種
	(うち絶滅1種)	
爬虫類	ミヤコトカゲなど	13種
魚類	タナゴモドキなど	21種
甲殻類	ミヤコサワガニなど	39種
昆虫類	ウスイロキマダラウマなど	24種
クモ類	ミヤコジマトタテグモなど	2種
多足類	ミイツヤステ	1種
貝類	ラッパガイなど*2	128種



キンバト



ミヤコトカゲ



ミヤコサワガニ



ラッパガイ

移入と考えられる貝類1種は除外。

\*1 本改訂で新たにミヤココキクガシラコウモリが絶滅種に選定されています。

\*2 絶滅種と考えられていたミヤコオカチグサの現生個体群が確認されています。



北大東島

南大東島

大東諸島

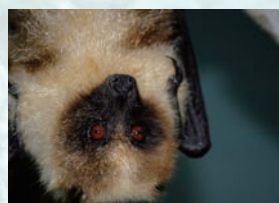
沖大東島

絶滅のおそれのある動物

## 大東諸島 86種

(うち絶滅4種)

哺乳類	ダイトウオオコウモリ	1種
鳥類	ダイトウコノハズクなど	42種
	(うち絶滅4種*)	
爬虫類	オガサワラヤモリ	1種
甲殻類	ダイトウコオイエビ(新称)など	8種
昆虫類	ヒサマツサイカブトなど	15種
クモ類	ダイトウヤイトムシなど	2種
貝類	オオアガリマイマイ(サメハダヘソアキアツマイマイ)など	17種



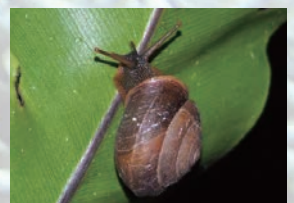
ダイトウオオコウモリ



ダイトウコオイエビ(新称)



ヒサマツサイカブト



オオアガリマイマイ  
(サメハダヘソアキアツマイマイ)

移植起源と考えられる魚類4種は除外。

\* 本改訂で新たにダイトウノスリが絶滅種に選定されています。

また、ダイトウウグイスは県内他地域で確認された個体群が本種と考えられ絶滅種から除外されています。

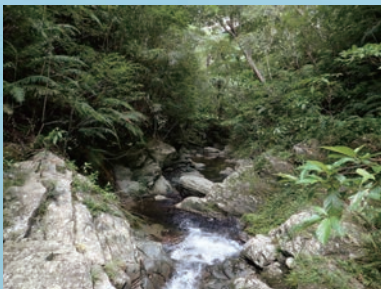
# 沖縄県の自然環境(陸域～沿岸域)

野生生物はさまざまな自然環境に適応してすみわけて生活しています。森林には多くの野生生物が生息・生育していますが、多くの島嶼からなる本県では沖縄島や宮古島、石垣島、西表島など地域によっても森林を形づくる植生環境やすんでいる野生生物が異なるなどの特徴が見られます。

また、山・川・海はそれぞれ密接につながり、川と海を行き来する両側回遊性の生物が多いことも本県の特徴の一つとなっています。河川を通して運ばれた陸域の栄養分は、河口や干潟、沿岸域の自然環境が形成されるために必要なものであり、多様な生物からなる生態系をささえています。

## 陸 水【河川・沢・湿地・湧水】

本県の河川の多くは延長がみじかく急勾配となっている。沖縄島北部や石垣島、西表島などの自然度の高い河川や沢では、オキナワイシカワガエルやヨシノボリ類、サワガニ類、植物ではクニガミトロボソウ、カワモズク類などこうした環境を好む多くの生物の生息・生育場所となっている。一方、沖縄島中南部では、人工的な河川が多いものの、自然が残っている地域では、ミナミメダカやタイワンキンギョなどが生息している。本県の湿地には、キクザトサワヘビが生息する久米島の溪流・湿地、シギ・チドリ類などの生息地である沖縄島南部や石垣島の湿地・干潟などがあり、その一部はラムサール条約登録されているほか、伊平屋島、池間島、与那国島など各地にも湿地環境が見られ、水鳥をはじめヒメフチトリゲンゴロウ、タヌキアヤメなどの生息・生育地となっている。このほか、沖縄島中南部や宮古島、大東諸島など石灰岩地には洞窟や地下水系の発達が見られ、ウリガータナガエビなど特有の生物が見られるほか、一部は崖や海岸などで湧出しミヤコサワガニや藻類などの水生生物の生息・生育の場ともなっている。



河川・沢



湿地



湧水



地下水

自然環境の区分は「沖縄県自然環境再生指針」平成27年3月、沖縄県より引用、一部改変  
※背景写真は西表島浦内川のマングローブをドローンを用いて撮影



## 陸 域【森林】

沖縄島北部のやんばる地域や石垣島、西表島の山地の森林には、河川などによる浸食地形が発達し、イタジイ（スダジイ）などの亜熱帯性照葉樹林が広がっており、多様で固有性の高い生態系を形成し多くの野生生物の生育・生息地となっている。高標高地では一部に雲霧林の状態が見られるほか、河川や沢沿いなどの湿潤な場所ではランやシダなどの着生植物や蘚苔類も多く見られる。海岸低地にはアダンやオオハマボウなどが生育するほか、低地から内陸まで広い範囲にアカメガシワ、イジュ、リュウキュウマツなどからなる代償植生が分布する。沖縄島中南部地域や宮古地域においては、昔から農地化や宅地化が進んだことから、主として石灰岩丘陵や石灰岩堤・崖などに森林が残っており、ガジュマル、リュウキュウガキなどの石灰岩地に特有の植生環境が見られる。



沖縄島北部の山地森林



八重山諸島の山地森林



湿潤な森林にみられる着生植物



ガジュマルが生育する石灰岩地の森林

## 河口・沿岸域【干潟・マングローブ・藻場・サンゴ礁】

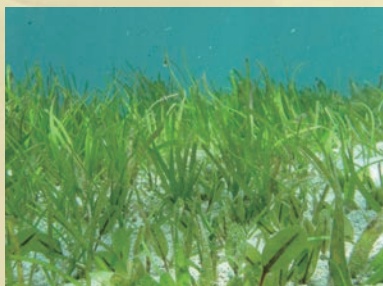
砂浜や岩礁、干潟、そして沖合のサンゴ礁に至る環境であり、河川により陸域と繋がっている。河口には、熱帯や亜熱帯に特徴的なマングローブが発達しており、西表島のニッパヤシ、沖縄島のヒルギモドキなど北限種の多いことが特徴である。河口や沿岸に広がる干潟には、多くの渡り鳥がみられるほか、貝類や甲殻類などきわめて多様な底生生物のすみかとなり重要である。沿岸域は黒潮のため温暖で各地にサンゴ礁の発達が見られる。本県では約400種の造礁サンゴが確認されているほか、宮古諸島の八重干瀬や八重山諸島の石西礁湖などでは大規模な離礁も見られる。サンゴ礁は魚類など多くのすみかとなるほか、外洋の高波を和らげる役割もあり、その内側にあるアマモ場などの藻場は幼魚のすみかとなり生態系に重要な役割を果たしている。



干潟



マングローブ



藻場



サンゴ礁

## はじめに

沖縄の島々は(1)地史から見て極めて古いこと、(2)日本の西南端に位置し、南方の国々の動植物の遺伝性とのつながりが強く、すでに南方系動植物の占める割合が極めて高いこと、(3)亜熱帯であることで南方系動植物の移入、定着が容易であること、(4)多数の島々から成り立っていることで、それらの島なりの種が分化、進化したことなどで、特異な動植物相が成立していることが指摘されており、世界遺産候補地として琉球列島があげられている。しいては、我々もそれら生物と共存しており、それらの生物を子々孫々まで引きついで行かねばならない。そこでそれらの生物の生きざまを解明し、理解し、保護する必要が負わされている。そこでその種を選定し、絶滅のおそれの程度に分けたランク付けを行うとともに保護の処置を講じる必要がある。そのため沖縄県は1996年来レッドデータおきなわを発行してきた。すなわち(1)自然環境保護の指針として、(2)沖縄県の文化財として、(3)遺伝的多様性の保護として(遺伝子資源の重要性)、(4)教育教材及び研究資料としての意義から必要であることのために。

本書はその第3版であり、哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類、甲殻類、昆虫類、クモ形類、多足類、貝類を取りあげてある。特に近年、水環境の悪化が問題になっていることから水生である魚類、甲殻類、貝類の保全を重視する立場からそれらの種類数を多めに取りあげることにした。

改訂・沖縄県版レッドデータブック第3版改訂委員会

委員長 東 清二



# 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（動物編）

## 目 次

発刊にあたって	
沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物（動物）	1
沖縄県の自然環境（陸域～沿岸域）	3
掲載種図版	ホームページ非掲載
はじめに	54
1. 沖縄県の自然とレッドデータブック	
1. 1 沖縄県の自然環境について	55
(1) あらまし	55
(2) 沖縄県における野生動植物とその現状	55
1. 2 改訂・沖縄県版レッドデータブック 第3版について	57
(1) 背景	57
(2) 本県レッドデータブック改訂の目的	58
(3) 改訂第3版の作成基本方針	58
(4) 沖縄県版レッドデータブックの意義	58
(5) 改訂・沖縄県版レッドデータブック第3版 作成体制	59
(6) 沖縄県版レッドデータブックの構成内容	61
(7) 改訂第3版のカテゴリー	61
(8) 今後の課題	66
2. 選定方法	
2. 1 はじめに	67
2. 2 評価対象範囲の設定	67
2. 3 掲載種の選定手順	68
2. 4 動物編の作成にあたり	68
3. 選定結果	
3. 1 掲載種数	71
3. 2 掲載種リスト	73
3. 3 哺乳類	90
3. 4 鳥類	109
3. 5 爬虫類	179
3. 6 両生類	218
3. 7 魚類	230
3. 8 甲殻類	297
3. 9 昆虫類	353
3. 10 クモ形類	401
3. 11 多足類	417
3. 12 貝類	423
4. 初版ー改訂第3版・カテゴリー対照表	674
5. 本書の作成に協力いただいた方々	700
6. 掲載種索引	702